

令和3年度 北区立王子第二小学校 自己評価報告書

令和 4年 2月 4 日
校長氏名 江口 千穂

1 自己評価の結果と分析

(1) 学校評価アンケート結果

児童: 児童数257(263)・回答数242 回答率94%
保護者: 家庭数211 回答数158 回答率75%

目標	重点目標	具体的な取り組み	努力目標	評価項目	結果%	達成
確かな学力を育む	学習意欲	一人1台タブレットPCを活用した個別最適な学び、協働的な学びを充実させている。 ・児童の実態を把握し、教材教具の開発や個に応じた個別指導を工夫した。	児童 90%	学校の授業に意欲的に取り組んでいる。	94	○
			保護者 80%	児童は意欲的に学習に取り組んでいる。	92	○
	基礎基本の定着学習指導	各学年及び教科の実態に応じて学力向上推進プランを策定し、基礎基本の定着を図っている。 ・算数科では、習熟度別指導を少人数で実施、毎週水曜に国語と算数を中心に「フォローアップ教室」を実施した。 ・マイルシート、スタディサプリなどのタブレットPCによる学習、東京ベジックドリルを活用し、基礎基本の定着を図った。	児童 85%	国語・算数の学習がよくわかる。	90	○
			保護者 85%	読み書き計算などの学習の基礎基本をおさえた授業が展開されている。	92	○
	NIE活動	週1回の「NIEタイム」では、児童の発達段階に応じて新聞読み比べ、新聞製作、スクラップ、新聞工作や文字探しなど多様な活動を取り入れている。 ・「第9回比べて読もう新聞コンクール」では、北区長賞(最優秀賞)1名・産経新聞社賞1名・奨励賞3名が受賞、「第12回いっしょに読もう!新聞コンクール」では、最優秀賞1名が受賞した。	児童 85%	NIE活動に進んで取り組んでいる。	82	○
			保護者 80%	新聞製作や新聞を取り入れた学習に興味・関心をもって取り組んでいる。	70	△
よりよい人間関係づくり	あいさつ・礼儀	登校時に校長、看護当番による指導を行った。 ・マスク着用でも気持ちのよいあいさつができるよう、あいさつに関する週目標に「目を見て」「心を込めて」等の文言を明確に設定した。	児童 90%	あいさつ・ていねいな言葉遣いをしている。	93	○
			保護者 90%	児童はきちんとあいさつをしている。	80	△
	基本的な生活習慣	「よくわかる!王子第二小学校」を活用し、生活のきまりを児童にも分かるように掲示、指導した。 ・毎週の生活指導夕会で、児童の様子を学校全体で共通理解し指導した。	保護者 90%	基本的な生活習慣が定着するように指導を重ねている。	89	△
			児童 90%	たてわり班などで思いやりをもって活動している。	94	○
	異年齢集団活動(たてわり班・登校班・クラブ・委員会)	たてわり班遊び、登校班、全校遠足など多様な異年齢集団活動を行い、上級生から下級生への思いやりある行動を体験できるようにした。	保護者 90%	たてわり班活動などの異年齢活動を通し、他学年との結びつきが深まっている。	84	△
			児童 90%	道徳の時間に、自分ならどうするか考えている。	93	○
心の教育 道徳教育	全教育活動を通じて道徳教育の充実を図った。 ・道徳授業地区公開講座の様子を学校ホームページおよび学年だよりで周知し、各家庭で話し合いができるよう働きかけた。	保護者 90%	道徳・全教育活動において心の教育の充実に向けている。	80	△	
		児童 90%	道徳・全教育活動を通じて道徳教育の充実を図った。	93	○	
すこやかな体づくり	充実した学校生活	適正な仕事分担や集会活動等を実施し、児童に満足感・充実感を味わわせる工夫をした。 ・学級内の児童の様子を把握し、課題がある場合は担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーなど「チーム」として対応にあたっている。	児童 90%	楽しく学校生活を送っている。	87	△
			保護者 90%	児童は楽しく学校生活を送っている。	95	○
	体力の向上	感染症予防対策を行いながら、体育の授業や体育的活動の時間の工夫を行い、児童の体力向上に努めた。 ・長なわ週間や短なわ週間などを企画し体力向上に努めた。	児童 90%	運動することや体育が好き。	89	△
			保護者 90%	体育の授業や全校での短なわ・長なわの取り組みなど、体力の向上に努めている。	84	△
	個に応じた指導 特別支援教育	支援を要する児童の指導について、校内委員会を開き、学校全体で支援する体制を構築した。 ・連携型個別支援計画を担任・巡回教員と作成し、共通理解の上、支援に当たった。 ・スクールカウンセラー、心理士等と連携し、児童理解に基づき、相談体制や必要とされる支援を充実した。	児童 90%	困ったときに相談できる人がいる。	89	△
			保護者 90%	巡回指導教員やスクールカウンセラーなど、学校全体で児童の支援に当たる体制ができている。	86	△
給食指導	安全で安心な給食を提供できるように衛生面の指導等を行っている。 ・各地域の産物、食文化、季節感に関心がもてるようなメニューの工夫を行っている。	児童 90%	おいしく給食を食べている。	97	○	
		保護者 90%	安全で安心な給食を提供し季節感あふれる食育を工夫している。	93	○	
安全指導 安全教育	授業中・休み時間など実際の災害を想定した避難訓練を行い、いつ、どこで災害が発生しても自分で考え自分の身を守るための行動ができるよう意識づけを行った。 ・毎日の消毒作業、月一回の校内点検を全職員で行っている。 ・新しい生活様式に基づき、児童の健康管理や安全な給食の提供に細心の注意を払っている。	児童 90%	地震や火災のとき、どう行動すればよいか知っている。	96	○	
		保護者 90%	避難訓練や防災訓練などを通して、安全教育が図られている。安全で安心な給食を提供し季節感あふれる食育を充実している。	96	○	
特色ある教育活動	情報発信	学校だよりやHP、配信メール、運動会でのYouTube動画配信などを活用し、情報発信を行っている。	保護者 90%	学校だより、HP、配信メールなどを通して適切に情報を発信している。	96	○
			児童 90%	地域に伝わる伝統文化を大切にしようとしている。	84	△
地域を愛する児童の育成	中央公園、中央図書館、飛鳥山博物館等の近隣施設を活用した学習を充実した。 ・SDGsの達成に向けた教育の充実をはかり、地域を愛し地域に貢献しようとする心情を育んでいる。 ・王子の伝統文化について講師を招聘し児童の興味関心を高めた。	保護者 90%	地域の自然、地域学習、伝統文化との関連を図る活動を積極的に行っている。	81	△	

(2) 分析と考察

① 確かな学力を育む

主体的に学ぶ児童の割合は94%、保護者は92%であった。区学力調査の結果では全学年、ほぼ平均値を上回っていることから、基礎基本の定着が図られていると捉えている。国語の「文章を書く」「調べたことをまとめる」等の内容において平均値を3ポイント程度下回っていることから、体験的な活動や「きたコン」を活用した

個別最適な学びの充実を図り、自分の言葉でまとめていく活動を年間通して計画的に実施していく必要がある。

② よりよい人間関係づくり

児童のあいさつについて、肯定的な保護者が83%（昨年度より10%増）児童は93%（昨年度より2%増）であった。思いやりの項目については、肯定的な児童が94%であるのに対し、保護者は84%であった。子ども祭りやたてわり班活動など、異学年交流の活動場面を保護者が参観する機会が少なかったことが要因のひとつでもあると捉えている。これまで以上に学校の教育活動を保護者・地域に周知広報していく必要がある。

「道徳の時間に自分ならどうするかを考えている」と回答した児童が93%であった。学習の様子については、全学級、道徳地区公開講座の様子をホームページ及び学年だよりで周知し、各家庭で話し合いができるよう働きかけた。今後も継続していく。

③ すこやかな体づくり

東京都児童・生徒体力・運動能力、生活習慣等調査の結果では、全学年で「握力」のTスコアは全国、都を平均8.4ポイント下回った。「運動することや体育が好き」と回答した児童は89%（前年度比3%減）であった。児童の体力・運動能力の低下が大きな課題である。体育の授業や休み時間の遊びを見直し、固定遊具の活用等を促し、改善を図っていく。

④ 特色ある教育活動

SDGsの充実に向け、学校を取り巻く地域・近隣施設の活用、外部講師を活用し地域に伝わる伝統文化等を学ぶ機会の充実に努めた。学習後に「学校やまちのことを知っている」と回答した児童は84%であった。今後は教科横断的な学習をより一層推進し、自己肯定感をより高めていく。

2 改善の方策

（1）教育活動の充実と工夫

① 児童の安全健康を守る取組

- ・区の感染症対策ガイドラインに基づき、状況に応じ王二小ガイドラインを適宜改定し、ホームページや学校だより等で取組内容の周知と保護者の理解と協力を求める。
- ・青少年赤十字と連携し、オンラインによる防災教育を実施する。また、安全教育プログラム・防災ノート等を活用した安全教育を推進する。
- ・児童の体力・運動能力の低下の課題改善に向け、年間を通した体力向上の取組や健康教育を実施し、日常的な体育的活動の充実と体育科の授業改善を図る。

② 小中一貫教育の推進

区学校ファミリー構想に基づき、特色ある教育活動の充実に努め、学習の系統性を踏まえた円滑な接続ができるよう、9年間を見通した指導を充実する。サブファミリー-学校園間の情報共有を密にし、地域の連携を深める。

③ SDGsの達成に向けた教育の充実

「きたコン」を活用し、課題解決的な学習のより一層の充実を図る。また、教科横断的な学習を推進し、教科等と関連させ、児童が調べ・体験・まとめ・発表（表現）する活動を充実する。

（2）成長・進化・発展し続ける学校づくり

① 教育課題への迅速な対応と長期的な見通し、継続的な取組の充実

- ・学校経営計画に基づき、学校の取組、特色ある教育活動等を視覚的に表した資料を作成し、教育活動への理解と協力を得るよう努める。
- ・全教職員が学校マネジメントに積極的に関わるとともに、教育実習生、教師養成塾生の育成を組織的に行い、人材育成に努める。
- ・「きたコン」を活用し、プログラミング教育、GIGAスクール構想、ITの日常化等、Society5.0の時代における個別最適化された学びの実現を推進する。
- ・課題の把握と改善に努め、学校に関わる全ての人々が組織の一員としての自覚をもち、自分ごととして課題解決に向け、何ができるのかを考え、実行していく。

② 学校を取り巻く地域・環境・人材の活用、地域に誇りをもつ児童の育成

- ・「王子田楽」をはじめとした、地域の伝統文化を学ぶ機会を充実する。飛鳥山博物館と連携し、授業モデルを構築し、1・2年生は生活科、3年生以上は総合的な学習の時間において、地域協力者等の講師を招聘し、体験活動を通して学ぶ活動を位置付ける。
- ・中央図書館、図書館指導員と連携し、図書館の本の配置や掲示等の環境を整える。また、読み聞かせボランティアの活用、読書に関するコンクール等への積極的な参加等を通し、児童が進んで読書に親しむようにする。